

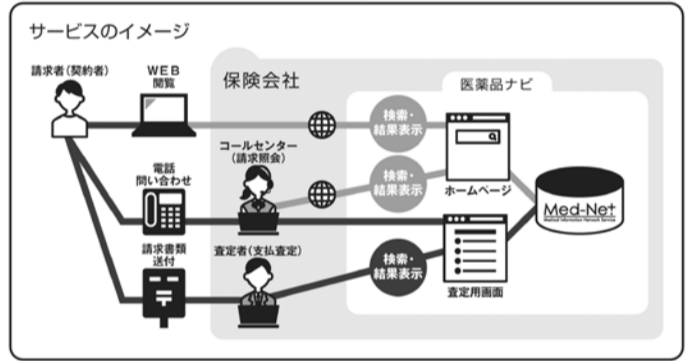
アジャスト

「医療情報ナビ」シリーズを強化 「医薬品ナビ」提供開始

生損保会社に向けた医療情報分析や査定業務サポートソフトの開発を手掛けるアジャスト(東京都渋谷区、横溝宏昌社長)は、このほど、「医薬品ナビ」の提供を開始した。メディケア生命のおくすり保険(正式名称:薬剤治療保険(無解約返戻金型))「メディフィットEX」での活用がスタートしており、複数保険会社が導入を検討。これにより、同社が従来から提供している「医療情報ナビ」シリーズが一層強化された。

わが国では、医療技術の進歩や国の政策などに伴い、治療は入院から通院にシフトしている。通院では薬剤治療が中心となっていることから、保険会社は「薬剤費に対する保険」への関心を高めている。一方で、「対象疾病」と「対象となる薬

剤」を確認するのに手間がかかり、査定部門に負担がかかるのが実情だ。さらに、保険金請求者(契約者)からの問い合わせが増えコールセンター業務の作業量も増加している。こうした状況を解決するために開発されたのが「医薬品ナビ」で、同ナビを使えば保険金支払いの可否判断が2〜3回のクリックのみで行える。このサービスには、「成分一般名を検索すると、医薬品の基礎情報や効能効果などの添付文書情報、ATC分類や薬効分類のコード情報、医薬品の適用傷病名(ICD10を含む)を表示する」といった機能がある。オプションで、支払い可否判断(○か×で表示)の機能を付加することができ、契約者が支払い可否



サービスのイメージ

判断をインターネットで確認できる機能も提供します。また同ナビは、査定者の負荷軽減に加えて、査定の均質化

JAPICの最新データを表示

また同ナビは、査定者の負荷軽減に加えて、査定の均質化の作業効率を上げたい、

る。(一財)日本医薬情報センター(JAPIC)による医薬品情報を表示している点が最大のポイントで、毎月更新されるJAPICのデータによって、最新の情報を入手することができる。また同ナビは、査定者の負荷軽減に加えて、査定の均質化の作業効率を上げたい、

支払い可否の判断基準を統一したい、情報を最新化するためのコストを軽減したい、などの要望に対応することができると話す。「処方された薬が保険金の支払い対象になるかどうか、保険会社のホームページ上で簡単に検索できる仕組み」としても医薬品ナビを利用することができると、顧客の利便性はさらに向上する。同社は、「今後、通院治療は確実に拡大すると予想される。医薬品ナビおよび医療情報ナビシリーズ全体で、保険会社や契約者および社会に一層貢献していきたい」としている。